

# Proton Pump Inhibitors Increase Incidence of Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug-Induced Small Bowel Injury : A Randomized, Placebo-Controlled Trial.

鷲尾, 恵万

<https://hdl.handle.net/2324/1654761>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏名：鷲尾 恵万

論文名：Proton Pump Inhibitors Increase Incidence of Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drug-Induced Small Bowel Injury: A Randomized, Placebo-Controlled Trial.

(NSAID 起因性小腸粘膜傷害に対するプロトンポンプ阻害剤の影響 - 無作為盲検化比較試験 - )

区分：甲

### 論文内容の要旨

**背景と目的：**非選択的非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)とプロトンポンプ阻害剤(PPI)を併用投与した患者では、60-80%と高率に小腸粘膜傷害が発生することが報告されている。PPIがNSAID小腸粘膜傷害を増悪させるかを検討する目的で、我々は無作為盲検化比較試験を行った。

**方法：**57人の健常人を、NSAIDであるセレコキシブ(400mg/日)とプラセボを服薬するCOX-2 SI群と、セレコキシブとPPIのラベプラゾール(20mg/日)を服薬するCOX-2 SI+PPI群の2群に無作為に分けた。本研究は2012年10月から2013年9月に日本の医療機関で被験者を集積し実施した。被験者全員に対して開始時と2週間の服薬終了後に計2回カプセル内視鏡検査を施行し、小腸粘膜傷害の陽性率および小腸粘膜傷害(潰瘍、びらん)の発生個数を2群間で比較した。主評価項目は2回目のカプセル内視鏡検査での小腸粘膜傷害陽性率とした。

**結果：**小腸粘膜傷害の陽性率は、COX-2 SI群の30例中5例(16.7%)に対してCOX-2 SI+PPI群で27例中12例(44.4%)と有意に高率であり( $p=0.04$ )、相対危険度は2.67(95%信頼区間、1.08-6.58)であった。びらん数はCOX-2 SI+PPI群で有意に多かったが( $p=0.02$ )、潰瘍数は2群間で差を認めなかった。空腸での小腸粘膜傷害陽性率はCOX-2 SI群(0%)に対してCOX-2 SI+PPI群(26%)で有意に高かったが( $p=0.003$ )、回腸では有意差はなかった。

**結論：**今回の無作為盲検化試験で、PPIはNSAID短期投与の小腸粘膜傷害を増悪させる可能性が示唆された。(UMIN000008883)